ふたなりお嬢様とメスショタ生徒会長の

うづうづ～♡ドスケベ！逆アナル恋人生活♡

ふたなりVER♡

目次❤

第一話　私の彼氏はふたなりちんぽ中毒生徒会長❤　3
第二話　二人の秘密❤　12
第三話　おちんぽ初体験❤　処女の俺童貞喪失❤　21
第四話　愛情とえっちたっぷり手作り弁当❤　30
第五話　女装メイドとふたなりお嬢様❤　38
第六話　夏休みおちんぽ水着男の子孕ませ無人島ツアー❤　49
第七話　がんばれ❤　がんばれ❤　逆アナル❤　57
閑話　明るい家族計画❤　73
第八話　えっちなホワイトクリスマス❤　78
最終話　メス堕ち逆アナルマリアージュ❤　87
おまけ❤　98

第一話　私の彼氏はふたなりちんぽ中毒生徒会長♥

葉月ユナ。

生徒の自主性を重んじる自由な校風だけど、勉強が出来なければ入れない私達の学園で、いつも学年一位を取る成績優秀の男子生徒。あどけなさが残る顔と、女性みたいにスラリとした、……でもお尻はちょっとむちっとしてえっちなモデル体型。性格も優しく、満場一致で生徒会長に選ばれた、まさに絵に描いたような王子様。

学業優秀、スポーツも万能、男女誰にも分け隔て無く接する、学園の有名人、なんだけど、

そんな彼の秘密はというと。

「あ♥　あ♥　ユナ君のお口、やっぱり気持ちいい♥」

「んぐ♥　ふぐぅ♥」

鼻の下を伸ばしてじゅぽじゅぽって♥　はぁとま～くをお目々に浮かべたような蕩け顔で♥

「飲んで♥　飲んで♥　マイカの子種♥　超高貴な血筋から生産されたロイヤルキンタマミルク、いっぱいご賞味してぇ♥」

「ん、んんんうううう♥♥♥」

どびゅうううう♥　ぶびゅうう♥
どっぷん♥　ぼびゅ♥

私みたいなふたなりっこ……♥　ザーメンいっぱいごきゅごきゅするのが大好きな、ド変態ちんぽ中毒男の子って事なの♥

「ん、くぅぅぅ♥　お、でりゅでりゅう♥　彼氏のお口におちんぽマラ汁いくらでもどっぴゅんできるう♥　無限供給はじまっちゃう♥　インフニティミルきゅゥ♥」

ひゃああ……、凄い、濃すぎてゆっくり尿道ちんぽ通り抜けてく♥　ゼリーみたいなザーメンユナ君のお口に注いじゃう……。……って、あれ♥　ユナ君、ぷるぷる震えて……♥

ぼびゅ♥　びゅる♥　びゅる♥

「あぁ！　あぁあぁ！♥」

ま、また射精してくれたぁ……♥　私の精子飲んだだけどっぴゅん、え、えっち、えっち♥

「ユナ君の変態♥　変態♥　マイカのザーメン飲んだだけで射精なんて♥」

変態、変態ぃ♥　おちんちんミルク飲んだだけで射精するなんて……♥♥♥

二人供射精しきったあと、チンポを口から引き抜くの。カリ高で亀頭がパンパンな私のおちんぽ、ふっくらまるまるの金玉付きおチンポをうっとり眺ちゃってる♥　それでユナ君は、まだ童貞の私より一回り小さいおちんぽからびゅるびゅる射精する♥ああ、こんなのスケベ過ぎるわよぉ、凄く興奮しちゃう♥

「ちょ、ちょっとエロ過ぎる♥　男としてダメ過ぎる♥　なんなのかしらユナ君♥おちんぽ汁でおちんぽぴゅっぴゅなんて、男としてどうなのよ♥」

「そ、そんな事言われても、だって……」

ユナ君は、目をそらして、顔を赤くして、

「……マイカさんの事、大好きだから」

「〜〜〜〜〜〜♥♥♥」

「え、うわ！」

が、我慢できない、ハグしちゃう！♥　キスもしちゃう♥

じゅる、じゅるぅ、ってぇ♥　舌を絡めて、口の中の濃厚なザーメンをしゃぶりあうような、スケベなキスするの♥　頭が蕩けちゃうえっちなキス♥

口を離すと、唾液、じゃなくてザーメンのかけはしが出来ちゃってる。お互い息を弾ませるけど、おかげで、お互いスケベな匂いいっぱい嗅いじゃって、……おちんぽたってきちゃう♥

「うう〜〜〜〜〜♥　ユナ君、可愛い……、普段は色んな女の子にチョッカイかけられる女顔のイケメンなのに」

「か、かわいいのかなぁ……♥」

「かわいいわよ！　女の子みたいな甘いマスクで、モデルみたいにスラっとしてて♥文武両道、生徒会長の仕事も完璧にこなす、どこに出しても恥ずかしくない男の子なのに、……チンポの前だとすぐ可愛くなるんだからぁ♥」

好き♥　好き♥　って言いながら、ほっぺたにチュー♥　はぁ、だっこしあうだけで幸せだなぁ……このまま時が止まっちゃってもいいなぁ……。

なんて、油断してたら♥

ぎゅむううううう♥

「んひんほぉぉ！？♥　ユ、ユナ君ダメよ♥　不意打ち金玉モミモミはだめぇ♥」

「さっきから意地悪な事言うから、お返し……♥」

金玉を握られる！？　主導権も握られちゃう♥　指の間からエロ肉がはみでちゃうんじゃないかってくらい、強めに♥　つ、つぶれりゅううう！♥　つ、つぶさないよね？　大丈夫、んひゃあ！♥　い、いだぎもぢいいのぉ～～～～♥　キンタマにサディスティックだよぉユナくぅぅぅん♥♥♥

「本当金玉よわよわなんだから……♥　ほらほら、男にメス金玉手玉にとられて恥ずかしくないの？♥」

「恥ずかしい、恥ずかしいです♥　日本有数の財閥キキョウイングループのお嬢様でありながら、彼氏にキンタマ握られちゃっただけで服従しちゃうマゾフタナリメスで申し訳ありません♥」

「うんうん、それじゃ手、離してあげるね♥」

「や、やだやだやだっ♥　もっとマイカのキンタマ躾けて、調教してっ♥　お高くとまったお嬢様を、ユナ君専用のタマミルクサーバーに奴隷堕ちさせてぇ♥♥♥」

「ミ、ミルクサーバー……♥」

あ、うう♥　ちょっと下品な言葉過ぎたかな♥　ユナ君どん引きしたんじゃ……♥

ハムッ♥

「おお♥　おおほぉ♥　またまたおフェラ～～～～♥♥♥　キンタママッサージしながらのぬっぽぬっぽおフェラ～～～♥　しゅきぃ、だいしゅきぃぃぃぃ♥♥♥　男の子にしか出来ない力強い吸引力♥　確かな実績♥　確かなパフォーマンス♥　ひょっ

とこ口で吸い付いて、お口の中で舌がフル活用♥　あ♥　おっほ♥　チンポの輪郭全部リサーチしてくる♥」

きんたまにくを両方の手でぎゅうぎゅう握られながらの逆フェラ♥　先走りがどぷどぷ溢れるの解るのぉ♥♥♥　乱暴にされてちんぽ服従しちゃってる♥

「ぷはっ♥　い、いいの、マイカさん♥　ミルクーサーバーになっていいの♥　僕、二十四時間ちんぽに吸い付いちゃうよ……♥　僕個人の何時でも２４時間ザーメンドリンクバーになっていいの♥♥♥」

「しょ、所有権お渡しします～～～♥　マイカのちんぽは葉月ユナ様に無料で♥０円で♥　法的手続きの必要も無くお渡ししますから♥　ど、どこでもおしゃぶり、おしゃぶりし放題！♥　チンポバーゲンオールシーズン開催中！♥」

い、言ってる事自分でも頭悪すぎるわよぉ……♥　セリフ全部、脳じゃなくてチンポから出ちゃってる♥　チンポで脳みそにデバフかかって、体がぶるぶる震えて、おっぱいも震えて♥

……あ、あれ？

……お手々離した、キンタマが解放されると、嬉しさより寂しさが……。

「ふえ？　ユ、ユナ君？」

じゅるるるるるるるるっ！♥

「んひいいいいいいい！？　ほ、本気フェラきたあ！？」
「ぢゅるっ♥　じゅるるっ♥　ずぞぞっ♥　じゅぶっ♥」

「あ……へあぁ……♥　そ、そんな、美味しそうに、しゃぶってぇ～～～♥　お、お、おおおおおっ！♥」

凄いえっちな水音たててしゃぶってる！♥　かわいい顔おちんぽで歪めてじゅぼじゅぼしてる！♥　か、かわいい、エロい、スケベぇぇぇぇぇ～～～♥♥♥

もっと、もっとぉ……！♥

「あああああ！♥　ひゃあ♥　お、し、幸せなの～～～♥　かわいい彼氏にドスケベおちんぽしゃぶってもらって幸せしゅぎるのぉ～～～～♥」

ユナ君は一度口を離した♥

「だったら射精して♥　ううん、射精せ！♥　エッロいスケベザーメン僕にゴクゴクさせるの♥」

そう言ったらまたおちんぽしゃぶるリブート♥　じゅっぽじゅっぽ私のお嬢様わがままおちんぽしゃぶりまくりぃぃぃ♥♥♥

「ああああ～～～～！！♥♥♥　おねだりでなく命令形！♥　ちんぽ強請りの酷い人ぉ～～♥♥♥　搾取されるぅ♥　チンポミルク強奪犯に、マイカのスケベザーメンご馳走しちゃう！♥　ぉお♥　でで射精るるだダメ　ぉお♥　あ♥」

んおぉぉ♥　し、舌出ちゃう、ダメ、限界♥♥♥

「ぉぉぉ

どっぴゅうううううううううううううううううううううううううううううう❤❤❤❤❤びゅるう❤❤❤ぼびゅ❤❤❤

で、でたぁぁぁ……❤　ふ、二人同時に射精しちゃった……❤　私のザーメン、さっきと違って、水鉄砲のような勢いで出てくる❤　口の中ちんぽミルク叩き込むの❤

私のどろどろミルクなおたまじゃくし、ユナ君のお口にときはなっちゃうの❤

おちんぽから、ユナ君はゆっくり口を離した。私は、肩を弾ませながら、ユナ君に目線を合わすように女の子座りした❤

「はぁ……はぁ……はぁ～～～……♥」
「……お、お粗末様でしたわぁ～～～♥　強引フェラ、凄い良かった……♥」
「だ、大丈夫？　無理させちゃった……？♥」
「全然平気、ふふ、うふふ♥」

私はユナ君を抱きしめて、ほっぺたにほっぺた、ちんぽにはちんぽ、きんたまにはきんたまを、ぐりぐり擦りつけちゃう♥♥♥　はぁ男の子なのにいい匂いする……♥
「はぁ～……好き……♥　……私の精液、ザーメン、タンパク質になって、ユナ君の栄養として摂取されて、体の一部になっちゃうのよね……♥」
「そのセリフ何度も聞くけど、そういうの、好きなの？」
「好き♥　大好き♥　自分のおちんぽ汁がかっこかわいいユナ君の一部になるのすっごい変態的だし、な、なんか愛が伝わっている気もするのよ♥　……ユナ君はいやかしら？」
「い、いやじゃないかも……♥　自分の細胞が、マイカさんの精液で生産される。それって、二十四時間マイカさんにザーメン漬けにされてるって事だよね？　いつでもマイカさんを身近に感じられて嬉しい……♥」
「え、え、えええ～～～♥♥♥」
「顔、赤いよ、マイカさん？」
「ユ、ユナ君のセリフが変態過ぎる所為よ！　うう、彼氏として全部揃った優良物件生徒会長なのに、こんなちんぽこ娘と付き合ってくれてるの、本当、夢みたい……♥」
「それはこっちの台詞だけど……♥」

そう、本当に夢みたい。
男の子にはモテたけど、男の子のお尻好き、なんて性癖の所為で、まともに男の子と恋愛なんか出来なかったのに、ユナ君と出会った事で、夢みたいな生活が始まった。
……ん？　ユナ君、もじもじしてるけど、……もしかして♥

「……ユナ君、もしかして、お尻疼いちゃってるのかしら？」
「う、うん……♥　……あの日の事思い出したら♥」
「あの日……♥」

ユナ君に当たってる私のおちんぽが、ビクン、と跳ねる♥　そしたらユナ君は私から体を離して、あの日みたいに、仰向けに転がって、くぱぁっとオスマンコを私に晒して……♥

「キンタマミルク強盗してすいませんでした……♥　今度は……僕のおしりまんこ……、マ、マイカさんのおちんぽでぇ……奪ってください……♥」

おねだりされた瞬間、プツンと私の何かが切れた♥

「好きーーーーっ！♥」

「んっ！♥　ん、んぅ～～～～っ！♥♥♥」

気づいたら私はユナ君に飛びついて、

キスをしながら私のおちんぽを彼のお尻に……♥

第二話　二人の秘密♥

これはユナ君と私が、結ばれた時の話。
結ばれるというのは、えっと、色んな意味で……♥　具体的には、おちんぽをお尻に……♥
こほん！
ともかくある日のお昼休み。その前日風邪で休んだ私が、同じクラスのユナ君の隣で、ノートを見せてもらっていると。

「マイカさんとユナって付き合ってるのか？」
「え？」
「え？」

ユナ君の友達に、突然そんな事を言われて、二人して驚いた。
私の顔は真っ赤になる。

「あ、私も気になってた。マイカ、ユナ君の話すっごいしてるよね」

私の友達も会話に参加してきた。どんどん、人数が増えてくる。

「い、いきなり何なの！？　葉月君と私、そんな関係じゃないわよ」
「でも、今も仲良くしてたし」
「これは、午後からの授業の復習、手伝ってもらってただけ！　……は、葉月君に失礼でしょ？　私なんかじゃ釣り合わない」
「いや多分、この学園で、マイカさんに釣り合うのユナくらいだと思う」
「葉月君に釣り合うのもマイカだけよ、それぞれのファンには申し訳ないけど」

この学園で私達それぞれが、そういう目で見られているのは知っている。
だけど、私達二人が付き合ってるとか、そんな事言われたのは初めてだった。

「え、え～と～……」

ドキドキしながら、隣の葉月君を見る。

バレバレかもしれないけど、私は、葉月ユナ君の事が大好き。
学園の王子様みたいな彼、私にも凄く優しくしてくれる。私が財閥のお嬢様でも、他の女の子と同じように扱ってくれる。出来るなら本当に付き合いたい。
……でも私には、彼と付き合えない理由があるわ。他に許嫁がいるとかそんな理由ではなく……。

「あ……あの僕は……」

顔を赤くしている葉月君。

「桔梗院さんは素敵な女性だと思ってる、だけど、付き合ってるとかそんなんじゃ」
「いいじゃん、折角だから付き合っちゃえよ」
「ご、ごめん、僕」

そこで葉月君は顔を伏せた。

「女の子と付き合えない理由があるから……」
「え……」

そんな理由があるなんて知って、私はビックリした。

「そ、そうか」
「い、家の事情？　……ご、ごめん、なんでもないよ、言わなくていいから」

ユナ君の言葉に、クラスメイトもそれ以上突っ込まなかった。
……付き合えない理由。
それがなんなのか、最後まで葉月君は誰にも言わなかったけど、
私も同じだ。
私も葉月君と付き合えない理由がある。
それは……。

♥♥♥♥♥♥♥♥

「〝お〝お〝お♥　んほおおおおおおお♥♥♥」

ちんぽマラ扱き〜〜〜♥♥♥　誰も来ない旧校舎の狭くて暗い女子便所個室で、お一人センズリショー開演中♥♥♥

あ、でも声は出しちゃだめぇ……♥　誰も来ないとは言っても、誰かに見られちゃう可能性はある♥　スニーキングチンポミッション♥♥♥

ごめんなさい私ちんぽ女なんですぅ♥　今日も葉月君の横顔思い出してスケベオナニーしてるエロチンポメスなんです〜〜〜♥♥♥♥

「葉月君♥　葉月く〜ん……♥」

妄想の中で、葉月君の細い指が、私のキンタマを情熱的に掴む♥　ひゃあん♥　私のプリタマ、そんなに甘やかされたらこってり濃厚ミルク過剰に生産しちゃうわ♥　ぴゅるぴゅるカウパー汁漏れちゃう♥

ああ♥　きっと葉月君にスケベバレしちゃうの……♥　こんなにちんぽ膨らませていけない子だね♥　って囁かれて、そして、

「だ、ダメ、スケベマンコ見せちゃだめ♥　めぇだよ、めっ♥　男の子がそんなピンクアナル見せつけちゃいけません♥」

妄想の中では目の前の洋式便器に座って、私の為に！♥　アナル大開放！♥

い、いれちゃう♥　挿れる挿れる挿れる挿れる！♥　……あ♥

「んんんんんあああああああ〝あ〝あ〝あ〝あ〝あ〝あ〝あ〝あ〝あ〝あ〝あ♥♥♥♥♥」

びゅうううううううう♥　どびゅ♥
びゅる♥　ぶびゅうう♥

で、出ちゃったぁ……♥　妄想の葉月君マンコを貫通して〜……♥　便器にたっぷりザー汁捨てぇ……♥　腰の感覚が抜けながら、尿道擦りながら精液通り抜けていくの好き〜……♥♥♥

……ふう。

「……う〜」

凄い気持ちよかったけど、射精した後の賢者タイムでは、いつも涙ぐんでしまう。
葉月君の恋人になりたい。でも、私本当はお嬢様でもなんでもない。今も葉月君をレイプする事考えてセンズリぶっこく、妄想犯罪メスチンポ女だから……。
自分のおっぱいを制服の上からまさぐる。葉月君と付き合うなら、この女の子の部分だけがあればいい。
でも、おちんぽを捨てるなんて絶対出来ない……。

「……寂しいわ」

虚しい気分で私は、トイレの排水レバーをひっぱって、自分の精液を処理する。葉月君に種付けしたかったザーメンが、渦を巻いて流れていって……。

「……あれ」

流　れ　な　い　。

いつもより興奮したせいか、粘度と量が多いザーメンが流れなくて、私は泣きそうな顔になりながら、必死でレバーを何度も動かした。

♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「はぁ～～～……なんとかなって良かった……」

なんとかザーメンを流し終えた私は、鞄を持って本校舎に戻ってきた。
……本当は、もう何の用事も無いし、家に電話して迎えの車を呼んで、帰っていいんだけど……。

「……葉月君の顔見てから帰ろうかしら」

ちょっと顔を赤くして、私は、生徒会室まで足を運ぶ。会う理由は……、今日ノートを貸してもらった事でいいか。さっき金玉汁は抜いたから、不意ボッキはしないと思うし。

「失礼します」

ドアを叩いた後、そう言って、扉を開ける。

「アレ？？？」

葉月君が居ない。扉の鍵は開いてたし、トイレにでも行ってるのかしら。

どうしよう？　……少しだけソファに座って、待たせてもらおうかしら。……ん？

「あれって、漫画？」

生徒会長の机の上に、なんかやたら薄い本が置かれていた。同人誌って奴だと思うけど……。

私は、なんとなく、その同人誌が何かを確認した。

私は絶句した。

〈逆アナル転生♥　勇者になったはずの俺が異世界でふたなり姫様の女装肉便器になるなんて♥〉

「え……え……」

私は思わずタイトルを二度見した。有名ソシャゲの主人公が、作中のヒロインに、おチンポぶちこまれてる表紙絵があった。

なんでお嬢様の私がこのソシャゲを知ってるかというと、主人公が葉月君に似ていて、ヒロインが私に似ているからだった。

……で、な、なんでそんな同人誌が、学校の、しかも生徒会室に？

「……ゴクリ」

私は生唾を飲みながら、同人誌の中身を開いた。

〈だ、駄目だよ……♥　俺男なのに女の子になっちゃう……♥〉

〈女の子になって構いませんわ♥　私の嫁にしてさしあげますから♥〉

「う、うひゃあ……♥」

そこにはソシャゲで、舞踏会に潜入する為に主人公がした、女装姿の主人公を、原

作にはない、ふたなりおちんぽでハメまくるヒロインが居た。
見た目は似ていても、口調は私達とはちょっと違う♥
でも、私に似てるヒロインが、えぐいちんぽで、葉月君に似た主人公のお尻まんこを掘りまくってる♥

「え、えっち過ぎる……♥　このマンガ……♥　さっき射精したばかりなのにちんぽ勃起してきちゃう……♥」

便器を詰まらせるほどザーメンを出したおちんぽが、スカートを盛り上げるくらい勃起しちゃってる♥
もうここでオナニーしちゃおうか、そう思った時。

タタタタタタタッ！

「ひっ！」

生徒会長室の外から、駆け足が聞こえた！　やばい、どこかに隠れなきゃ！
私は慌てて、生徒会長室にあった、衝立の奥に身を隠した。
すぐにドアが開く音がした。

「……良かった、誰も居ない」

衝立から、バレないように葉月君をチェックする。
落ち着いた葉月君は、後ろ手で、会長室の扉を閉める。……そして、窓にもカーテンをかけてから、机の上の同人誌に向き直った
葉月君の位置は、私が隠れてる衝立より前だ。私に後ろ姿をみせている。

（……まさか）

いやいや、あれが葉月君の私物なんて有り得ない。きっと誰かのを没収したか、廊下とかで拾った物を処理に困って持ってきただけだ。そうに決まってる。……そう自分に言い聞かせていた私だったが。

「……駄目、我慢出来ない」

（え……ええ……！？）

葉月君が、制服のストレッチパンツを脱ぎだした！　男の子なのに、全く毛が生えてない下半身を、私は真っ赤な顔でガン見しちゃう。妄想していた男の子のお尻が、同じ部屋の同じ空間にある。それだけで、勃起がおさまらない。

（ま、まさか、オナニーしちゃうの！？　葉月君が！？　生徒会長なのに！？　しかもそんな本をおかずに！？）

混乱する私だったが、私の予想以上の事を、葉月君はし始めた。

……ここからじゃ見えないけど、何かゴソゴソしてる。そうしてから、

葉月君は、その手を前じゃなくて、後ろに回した。

クチュ♥

「……え」

思わず声が漏れた。だけど、葉月君は私に気付かずに、弄り続けている。

な、何をって……。

（う……嘘……嘘……まさか……）

葉月君は、自分のお尻を弄っていた。

（〜〜〜〜〜〜〜っっっ♥♥♥）

め、目の前で起きている事が理解出来ない♥　葉月君が、逆アナル同人誌で、お尻オナニーしてる♥

「ん……んぅ……んぅ〜〜〜〜♥」

（は、はわ、はわわわわ♥♥♥）

やだ……♥　男の子の生アナニーなんて初めて見る♥　成績優秀スポーツ万能な生徒会長が、学校で逆アナル同人誌でアナニーしてる♥

大好きな人のこんな姿を見せられて、勃起を我慢なんて出来るはずがない……♥

でも、オナニーはしちゃ駄目……♥　そんな事したらバレちゃうわ……♥　大好きな葉月君に、学校でチンポを勃起させてる変態だってバレちゃう♥　……あれ？　でも葉月君も、学校でアナニーする変態よね？

（だ、だったら、バレてもいいんじゃ……）

馬鹿な考えで、思わず衝立から、身を乗り出そうとした時だった。

「……す……好きぃ♥」

「……え？」

「桔梗院さん……大好きぃ……♥」

突然、私の名前が出てきた。

え、嘘。まさか……。

「桔梗院さんのおちんぽ……いれてぇ……！♥」

わ、私のおちんぽ想像して、アナニーしてる！？

（嘘、嘘、そんな……♥）

ブルンッ♥

……気がついたら私はちんぽを取りだして、

（そんなぁ～～～～♥）

せんずり開始しちゃう♥　くちゅくちゅアナニーサウンドを聞きながら、おちんぽコキコキしちゃう♥

「はぁ、はぁ、はぁ♥」

（ひゃあ、ひゃあ、ひゃあああ♥）

おちんちんシコシコする手が止まらないの♥　大好きな男の子が私のちんぽを想像して、お尻アナニーしてるんだもん♥　こんなの我慢出来ない、すぐ出ちゃう♥

「イ……イキそうだよ……種付けして、赤ちゃん孕ませてぇ……」
（ひいいいい！♥　そんな、えっちな言葉ダメよ！♥♥♥）
そんな下品な言葉聞いたら、私ぃ♥
あ、
「イく……！　あ、あああああっ！♥♥♥」
「ひゃあああああああ！♥♥♥」

どびゅるるるるるうううう！♥
ぼびゅうううう！♥♥

しゃ、射精ぇぇぇ♥　射精開始♥　葉月君のリアルアナルでドスケベオナニー射精いいぃ♥
私のちんぽ暴れちゃうの♥　好き好き大好きって、葉月君の肛門を求めるように上下左右にぶんぶん動いて、ちんぽ汁撒き散らして♥
……そしたら、

ガタンッ！

「……え？」
「……あ」
……私は勃起チンポで、衝立を倒してしまった。
振り返った葉月君は、私の姿を見る。
スカートからでかすぎる勃起チンポを晒して、射精したザーメンで水だまりを作った、私の姿を見た。
少しの沈黙の後に、
『……わあああああぁぁぁぁぁぁぁっ！』
二人の絶叫が、生徒会長室に木霊した。

第三話　おちんぽ初体験♥　処女の侭童貞喪失♥

翌日の土曜日。
私は、葉月君の部屋に居た。
葉月君の家族は出かけていて、大好きな人と一つ屋根の下という状況だ。
ずっとずっと緊張している、そして、
私のおちんぽも緊張、というか勃起しっぱなしだった。

「はぁ……はぁ……♥　葉月君のお尻……♥」
「は、恥ずかしいよ、桔梗院さん……」

今がどういう状況かというと、私は床に、葉月君はベッドに座っている。
仰向けで足を拡げてお尻の下に枕をおいて、ちっちゃなおちんぽの形をしたバイブを、お尻の穴にハメている。
昨日、私達は、お互いの気持ちを確かめ合った。
私が葉月君を好きだった事と、ふたなりちんぽが原因で彼女になる事を諦めていた事。
そして、葉月君も私を好きだった事と、ふたなりちんぽが好きで彼氏になる事を諦めていた事。
エロ同人だったら、そこからなしくずしにセックスという流れになりそうだけど、私達は全く気持ちを整理出来なかった。だから、一度お互い家に帰る事にした。
嬉しさよりも驚きの方が凄かった。
……だけど、昨日の夜は。

「ずっと……♥　ずっとおちんぽ勃起させていたんだから♥　葉月君が私の事好きって知って、嬉しかったから♥　でも、射精は我慢したのよ♥　少しでも多く、葉月君の中に中出ししたかったから……♥」
「ぼ……僕も……桔梗院さんの事想像してずっとアナニーしてた……♥」
「う、嬉しい……♥」

大好きな人が、ちんぽ中毒だなんて、凄い奇跡……♥
嬉しくて涙が、ちんぽから先走りえっち汁が流れちゃう……♥

「で、でも、いいの？　桔梗院さんの童貞もらっちゃっていいの？　男の子相手に、

それも、処女のまま……」
「いい、いい♥　葉月君の処女もらえるなら、一生処女で構わないわ♥　は、葉月君こそ、男の子なのに……」
「ぼ、僕も、……一生童貞でいいから、処女奪って欲しい♥　……桔梗院さんの精液便所になりたい♥」
「〜〜〜〜〜〜っ♥♥♥」

私は我慢出来ず、ベッドの上の葉月君に飛びかかった♥

「ひゃあっ♥」

そのまま唇を奪う♥　舌を絡ませて、二人でエロエロなディープキスしちゃう♥ファーストキスのはずなのに、ロマンチックさも何もない下品なキス♥　そのまま、私よりちょっとだけ小さいおちんぽに、自分のおボッキ擦りつけちゃう♥

「好き♥　好き♥　ずっと好きだったぁ♥　優しくしてくれるのが嬉しくて、いつもおちんぽ勃起させてた♥」
「ぼ、僕も、桔梗院さんがふたなりだったらって、お尻の穴いつもうずかせて♥　……んっ♥」

ズポンッ

「え、えええええ〜〜〜〜〜〜♥♥♥」

お尻の方から、空気が漏れるような音をしたと思ったら、葉月君、お尻の力だけでおちんぽディルド外に出しちゃってる♥　私はキスをやめて、また床におりた。ぽっかりアナルが、ゆっくり閉じて、……オモチャで遊びすぎの縦割れおマンコになってる♥
エ、エロいぃ……♥　処女なのにビッチなオスマンコなんて、国宝に指定すべきだよぉ……♥

「ほ、本当はお尻って、一ヶ月くらい開発しないと気持ちよくないはずよ♥　どれだけ一人で遊んできたの♥」
「い……言わないで♥　いじめないで♥」
「学校では真面目な生徒会長の癖に、お尻は不良過ぎるなんて〜〜〜♥」

すぐにでも挿入したい気持ちをおさえながら、私は立ち上がってシャツのボタンを外して、ぶるんばるん♥　って、おっぱいを外に出した♥　おっきすぎるおっぱいはコンプレックスだったけど、……葉月君が顔を真っ赤にしながら、ガン見してきたから、嬉しく感じる♥

一晩中勃起して、家に来るまでも勃起してたちんぽを、葉月君のお尻おまんこに擦りつける♥　もう擦ってるだけで射精しそうになっちゃう♥　駄目、これ、いれた瞬間射精しちゃう奴よ……♥

「は……葉月君……いれちゃうわよ……♥　私の童貞もらって……♥」

「……あ、あの、桔梗院さん」

「……どうしたの？」

顔を赤くして、目を反らしていた葉月君だったけど、こっちに向き直ると、両手を拡げて、うっとりとした顔で、

「……ユナ君って、名前で呼んで欲しいです♥」

「～～～～～～～～～っ♥♥♥」

凄い乙女チックな事を言ってきた葉月君、ううん、ユナ君に我慢出来ず、

「ユナ君っ♥♥♥♥♥」

名前を呼びながら、思いっきりちんぽをケツマンコにぶちこんだ！！！

ズニュウ！

「あひゃああああああおあにゃあああああっ♥♥♥♥♥」

「あ！　あひ！　んほ！　んほぉぉぉぉぉぉぉぉっ♥♥♥♥♥」

びゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅりゅゅるるるるるるううううう♥♥♥

は、はい案の定我慢は無理でした〜♥　童貞喪失中出しＲＴＡ記録０秒を樹立しました〜♥

な、何これ、ケツマンコにいれるって、これだけ気持ちいいの♥　ちんぽから種出しがとまんない♥　お尻まんこの需要にザー汁の供給が溢れちゃう♥

「あ♥　んひ♥　ん、あああぁぁっ♥　んひぃぃぃ♥」

ユナ君、凄いメスイキしてる……♥　体がガクピクってして、何度もエロい声あげて♥

「しゅ、しゅごい♥　おちんぽしゅごい♥　処女けつまんこに童貞ちんぽはめられるのしゅごすぎぃ～～～……♥」

女の子みたいなかわいい声で、えげつないセリフ喋ってる♥　全然、生徒会長の凛々しさなんかない♥　女装なんかしなくても、このエロ顔だけで、皆からメス認定されちゃう。……それにしても、本当に男の子って、おちんぽいれたら、体びくびくさせて脳イキまでしちゃうのね♥

ううん、ユナ君が特別なのかな♥　おちんぽ好きの才能ＭＡＸなのかしら♥

メスイキで震えちゃってるユナ君に、おっきなおっぱいを擦りつけながら抱きしめる♥

「このままじっとしてあげるわ……♥」

「あ……ふぁ……♥」

「大丈夫……私のおちんぽは逃げないから……♥　ユナ君がぱこぱこされたくなったら、いつでも腰動かしてあげるから……♥」

「～～～～～っ♥♥♥」

ユナ君は無言で、甘えるように私を抱きしめてきた♥

暫くしてから、ユナ君の方から、軽く腰を揺すって……♥

「ぼ……僕、こんな変態だから……お尻におちんぽが欲しい淫乱だから……♥　桔梗院さんと幸せになんて絶対なれないって思ってたから♥」

「うん♥　うん♥」

「本当は、生徒会長の仕事も大変で……♥　毎日不安いっぱいで……♥　それをごまかすようにお尻でオナニーしてたから♥」

「そうなの♥　大丈夫♥　これからは私がユナ君のお尻毎日パコパコしてあげる♥」

「い……いいの……？　本当に……？」

「本当に♥　……と、というか、私だってユナ君と同じくらい変態だった訳だし、お互い様よ♥」
「……桔梗院さん」
「……マイカって呼んでくれる？」
「……マ、マイカさん♥」
「な～に♥」
「お尻セックスして……♥　赤ちゃん出来ちゃうまで種付けして……♥」
「♥♥♥♥♥♥♥♥」

私は大喜びで、ユナ君のケツマンコに腰を振り始める♥

『ひゃんっ♥』

前後ぉ♥　するだけで、お尻の穴がぬぷぬぷ～♥　って♥　おちんぽ絡みついてくる♥

「あん♥　あぁん♥　お尻凄い♥　童貞男の子のお尻すごいぃぃぃ♥　おっほぉ♥」
「ひゃあああ♥　ど、童貞なのに僕、童貞ちんぽでファックされて♥♥♥　エ、エロすぎるよぉ♥」

ああ♥　ザーメン塗れのおけつのお肉が凄いうねって、私のちんぽしゃぶってくる♥　涎を垂らしながら逆アナルセックスしちゃう♥
前立腺の位置を確かめて、そこを擦るように腰をあげて、ゴリゴリィ♥　って刺激する♥　その都度ユナ君が、あひぃ♥　ってエロ声あげるのが凄いかわいい♥　学園の王子様がおちんぽでひんひん喘いでる♥　ギャップ萌えっていうのかしら♥　エロい♥　清楚な生徒会長がちんぽ中毒ビッチ男の子だなんて♥　卑怯エロすぎる♥

「きもちいいわぁ……♥　ユナ君のおまんこ最高よぉ……♥」
「マ、マイカさんのおちんちんも♥　ひゃあっ♥」
「はぁ♥　駄目♥　こんなのもたない♥　い、いきそう♥　中毒なる♥　桔梗院家の跡取り娘が、男の子のオスマンコ中毒になっちゃうぅぅぅ♥　んほぉ♥　んひ♥　スキャンダル決定♥　ふたなりちんぽ令嬢と生徒会長の秘密の逆アナル恋愛♥　記者会見で公開セックスしちゃう～～～～♥」

ズチュコン！　グチュコン！　ジュボー！　グプン！　グチュー！　ニュチュウ！

おっぱいとツインテールと金玉をぶるんぶるん揺らしながら、私はがむしゃらに腰を振りまくる♥　ユナ君の顔はアへりっぱなしで、きっと、私の顔も同じくらい酷い事になってる♥

男の子と逆アナルセックスするだけで気持ちいいのに、それがしかも大好きな人♥

「幸せ♥　幸せっくすぅ♥　お尻の中でおちんぽがびゅるびゅるするハピネスセックスぅ♥　の、脳がイカれる♥　おボッキちんぽが尻の中でフルチャージする♥　こんなの無理♥　無理無理の無理♥　ユナ君のおしりマンコ優秀過ぎる♥　一発でメスチンポをイカレチンポにする名ちんぽ量産機♥　世界中のちんぽこ女が群がる♥」

「や、やだぁ♥　おちんぽ、マイカさんのじゃないと嫌だぁ♥　僕のおしりマイカさん専用にしてぇ♥」

「ふぇ！？　ひゃ、だ、駄目よユナ君♥　こんなチート級の世界スケベ遺産を独占していいなんて言われたら、あああああ腰とまんないとまんないちんぽ凄いおすまんこ凄いあへあひゃんひゃああ♥♥♥♥　〝おっほぉ♥　んひぃ♥」

告白されセックスだめぇ♥　誓う♥　誓っちゃう♥　指輪にリングをはめる代わりに、肛門にちんぽをハメハメするの♥

「ユナ君っ♥　ユナ君は私の事お嫁さんにしたい？　それとも私のお嫁さんになりたい？」

「ど……どっちもぉ……♥　どっちもなりたいぃ……♥」

「よ……欲張りぃ♥　お仕置き♥　お仕置き決定です♥　ケツマンコでおちんぽを惑わす生徒会長は種付けアクメの刑です♥　いっちゃえ♥　いけ♥　いけぇ♥」

知らず知らずのうちに乱暴な口調になって、ともかく、お尻の穴にちんぽを何度も叩きつけて♥

ユナ君、思いっきり抱きついてきた♥　ちんぽが一番奥に入る♥

……だめ♥

「あああぁぁぁぁ射精る♥　射精まくる♥　ちんぽからエロエロザーメン男の子のお尻に提供しちゃう♥　んほおおおおおおおお〝お〝お〝お〝お〝お〝お〝お〝お〝お〝お〝お〝っ♥♥♥♥♥」

「ひゃあああああああっ♥　中出し♥　精液きた♥　ア、アクメ、しゅる♥　んほおおおおおっ♥」

「にゃあああ♥　注ぐ♥　注いじゃう♥　男の子孕ませるくらいこくまろメスチンポ汁直腸に生きたままお届けぇぇぇ♥　おほおおぉぉぉぉ♥♥♥」

お尻にちんぽ吸い取られる♥　私の金玉からっぽにするかのよう、ケツ穴がキュイキュイ締め付けてくる♥

さ、最高だよぉ……♥　オスマンコとのセックス♥

「ひゃあ、ひゃあああ……♥　……♥」

「はひ、んひ……♥　〝おお……〟あぁ……♥」

……しちゃった♥　大好きな人とのラブラブ逆アナルセックスしちゃった♥

幸せ〜〜……♥

「マイカ……しゃぁん……♥」

「えへ……えへへへへ……♥」

私の名前を呼んでくれたユナ君に、にやにやしてしまう。幸せに蕩けきった顔のまま、私はユナ君にキスをした♥

この日から、私達は、学園を代表するカップルになって、

……そして裏では、ド変態逆アナル恋人になったのでした♥

第四話　愛情とえっちたっぷり手作り弁当♥

葉月ユナと付き合い初めて、一ヶ月が過ぎた。
今じゃ学園公認のカップルになった私達は、色んな所で目立ってしまう。嬉しいけれど、ちょっと恥ずかしい。
……でも、私達が付き合ってる事が、知られるのは問題なかったり。……バレたら大変な事は、

「ユナ君♥　おほっ♥　おしゃぶり気持ちいい♥」
「んぐ♥　んうううぅぅ〜〜♥♥」

放課後、人が滅多に来ないトイレの個室で、男の子のユナ君に私のおちんぽしゃぶってもらってる姿は、絶対誰にも見せられない♥
あの日から毎日、ユナ君とおちんぽプレイしてる♥　お口まんこは勿論、お尻おまんこにもちんぽじゅぼじゅぼして、休日はいつも二人っきりでエッチしちゃっている♥
毎日……彼氏におちんぽハメハメ出来るなんて……夢みたい……♥

「お゛お゛♥　ぃ゛！　ぐぅ！　スケベミルク射精まくる　ぅ゛ぅ゛ぅ゛ぅ゛ぅ゛ぅ゛♥」
「んふううう♥」

ぼびゅぼびゅぼびゅうううう♥
びゅるん♥　どぴゅん♥　ぶっぴゅん♥

口の中に、ゼリーどころかプリンみたいにプリプリな、スケベなおちんぽミルクをご馳走しちゃう。
で、ユナ君はそれを飲んだだけで、どぴゅどぴゅザーメンお漏らし……♥　制服のパンツをどろどろにしちゃってるの

「ま……またお漏らしをしたのユナ君ったら♥　おちんぽ汁飲んだだけで射精なんて、エッチ過ぎるわ♥」
「だ……大丈夫♥　着替え持ってきてるから……♥」
「ザーメンお漏らし前提でおちんぽしゃぶってくるのね……♥　かわいい♥　変態♥大好き♥」

「あふ……♥」

嬉しそうにそんな事言う変態さんに、私のイキたておちんぽをグリグリ擦りつけちゃう♥　すると、私のおっきな金玉にかわいい顔を埋めてくる♥　ああ、彼氏の顔にキンタマスメルマーキングしちゃう、誰にも渡さないように、私だけのものにしたくって、ムチムチキンタマでズリズリって♥

（……あ、そうだ）

……ちょっと、怖いけど、言っちゃおうかな。

「……あ、あの、ユナ君。一つお願いがあるのよ」

「……お願い？」

私がそう言うと、ユナ君は、金玉とおちんぽにほおずりしながら私を見上げる。うう、言うのちょっと怖いけど、勇気を出して……。

「こ……今週の金曜日ね……私が作ったお弁当食べて欲しいんだけど……」

「……え？　手作りお弁当？　……お願いも何も、そんなの、僕からお願いしたいくらいだけど」

うん、その反応は解る。でも……。

「え……ええとでも……あの……」

「……マイカさん？」

不思議そうな顔をしている、ああ、早く言わないと……！

私が、ユナ君に食べて貰いたいのは……！

「私の……！　ザーメンで出来たお弁当を食べて欲しいのよ……！」

「……へ？」

私の爆弾発言に、ユナ君は、暫く口をあんぐり開けていた。

♥♥♥♥♥♥♥♥

と、撮れてるかしら♥　よし、スマホで今から料理実況するわね♥

お弁当を作る約束をしたのが水曜日で、今日は金曜日の朝６：００！　お父様やお母様は勿論、使用人も旅行に出かけたから、キッチンには私一人だけ……。この日の為にオナ禁したから、材料の金玉ミルクは充分……。ああ、ドキドキしてきた～……♥　ユナ君に、私の手作りザーメン弁当作っちゃうの♥

わ、私！　子供の頃から夢だったの！　……好きになった人に、愛情たっぷりのおちんぽミルクで出来た、ごはん食べてもらうの♥

……引いちゃう？　引いちゃうわよね？　ごめんなさい。……でも、なんだかんだで、食べたいって言ってくれたユナ君、大好きよ♥

そ、それじゃ最初はおにぎりね♥　これは簡単、愛情こめてにぎるだけ♥　中身は梅干しに、鮭に、ツナマヨ♥

次にオムレツを作るわ。ボウルに卵を二個、三個、いれてかきまぜる。……そ、そして、ここで、ちんぽぉ～♥　朝からボッキしまくってる、私のおちんぽ♥　オムレツに欠かせないミルクの代わりに、ザーメンを使っちゃうの♥　こう、ボウルを床において、その上からおちんぽを扱いて♥　ひゃ、ら、卵液におちんぽ突っ込んじゃった♥　大丈夫朝ちゃんとシャワーしてきたから～♥　ユナ君は、洗ってない匂いの方が好きって、前言ってたけど、お料理は衛生が大事だから我慢して欲しいわ……♥

……んひ♥　ど、どう考えても、おちんぽで料理してる時点でアウト♥　下手したらユナ君病気になっちゃう♥　けど止められないの♥　卵液ちゃぽちゃぽさせながら、朝のマラ扱き止められない♥

んほ♥　射精る♥　卵にいっぱい精液出ちゃう♥♥♥　んひゃああ♥♥♥

どぴゅん♥　びゅるるるるるる♥

あぁ出てる出てるぅ～～～♥♥♥　卵にいっぱいザーメン生クリームぅ……♥　うう、卵の量よりも多いかも♥　でもこれをしっかり泡立て器で混ぜて……♥　や、焼く前からヤバい匂いしてるわ♥　大丈夫♥　ユナ君が食べれなかったら私が責任もって食べるから♥

ちっちゃなフライパンに♥　バターをたっぷり溶かして♥　ザーメン入り卵液をいれて♥

や♥　焼けてる♥　ユナ君に食べて貰う為にザーメンオムレツが焼けちゃってる♥

良い匂いの中にエグい匂いが混ざってる♥

で……出来たわぁ～……♥♥♥　これをこうしてここにいれて♥　ふふ♥　次もどんどん作るわね♥

♥♥♥♥♥♥♥♥

お昼休み、学校の屋上、誰も入ってこられないように鍵をかけた状態で、スマホで私の料理風景を見たユナ君は、

「はっきり言って頭おかしい」

「ええ！」

思った以上に辛辣な言葉を投げてきた。ガーン！　って涙目になる私。

「なんで！　なんでよ！　ユナ君いつも私のおちんぽ汁美味しそうに飲んでくれてるじゃない！」

「それとこれとは話が別だよ！？　りょ、料理で食べるのは、なんか違うというか……。精液はおちんぽとセットじゃないと寂しいというか……」

「ひ……酷いわ……、一生懸命作ってきたのにぃ……！」

まさか、恋人になって初めての喧嘩が、精液は飲めるけど食ザーは無理かどうかになるなんて……！　うう、確かにHなSNSでも、話題になったりする喧嘩案件だけどぉ……。

……くすんくすんと泣きそうになった私に、ユナ君が言った。

「……食べるよ」

「……え？」

「早起きして作ってきてくれたんだし……それでマイカさんが喜ぶなら……。……の、残しちゃったら、ごめんね」

「！♥」

私はもう、ツインテールがパタパタしそうなくらい喜んだ。ユナ君の気が変わらない内に、レジャーシートをひろげて、二段重ねのお弁当箱を開き、オムレツ、ハンバーグ、サラダといった、彩り豊かなお弁当をひろげた。……見た目は凄く美味しそうに出来たけど、この料理に全部私のふたなりミルクが入ってるのよね♥

あぁもう、考えただけで、ちんぽ大きくなっちゃう。

……ふふ♥

「そ、それじゃいただきます。……って！？」

ユナ君が驚いた理由は、突然私がおんもにおちんぽを取りだしたから♥

はぁ～～～ん♥　屋上の青空の下で、ドスケベセンズリするだけで興奮しちゃう♥

……これから、もっと最低な事しちゃうの。

「ま……待って、ユナ君♥　最後の仕上げに……ぶっかけるの……♥　私のチンポミルク♥」

「え……嘘……」

嘘じゃないの♥　かわいい彼氏の前で、下品な女ちんぽマラシゴキィ♥　あ、いく、いく、いくぅん♥

「あぁん♥」

どぴゅう♥　ぼぴゅぴゅう♥

ユナ君の目の前で、私の手作りお弁当に、たっぷり白濁液ぶっかけちゃう。尿道から精液が抜ける感触に呆けながら、お弁当に精液をかけていると、ユナ君は苦笑いをしていた。……私はにこっと微笑んで、ユナ君の後ろに回って、

「ひゃっ！？」

ユナ君のパンツをずらして、お尻を丸出しにしちゃう♥

「……ごはん中、椅子になってあげるわ♥　おちんぽ無しだと寂しいんでしょ♥」

「……う……うん♥」

私のぴっこんぴっこん揺れるおちんぽを、ユナ君のかわいいお尻の谷間に押し付けて、ずりずりしたあと……先っぽをお尻の穴にあてがって♥

「んほぉ♥　ひゃあああぁぁぁ～～～♥」

ずぶずぶとお尻におちんぽいれたら……♥　聞こえるえっちな喘ぎ声♥
あぁん、久しぶりの彼氏のお尻まんこぉ……♥　気持ちいいし、安心しちゃうわ……♥
昨日ずっとおちんぽ寂しかったんだから、もっとおちんぽだいしゅきホールドしてぇ……♥

「ふふ♥　座り心地はいかがかしら♥」
「さ……最高……♥　大好き……♥」

さっきまでの不安そうな顔から一転、ちんぽ大好きなメス男子顔♥

「それじゃ♥　このまま召し上がって♥」

促したら、ユナ君はまず、最初にオムレツに箸をつけた。どろっとしたザーメンがかかったそれを口に入れて、咀嚼しはじめる。もぐもぐと口を動かす様子はかわいらしいけど、口の中で精液がどろっと蕩けだしてると考えたら、興奮する♥
ユナ君、学校で食べちゃってる……♥　わ、私の本当に恥ずかしいおちんぽミルク料理♥　あぁ、お尻の中のおちんぽ、ムクムクって大きくなっちゃう♥

「……お……美味しい♥」
「え？」
「美味しいと思っちゃいけないのに、美味しい♥　マイカさんのザーメン料理美味しい♥」
「♥♥♥♥♥♥♥♥♥」
「んひい♥　ちょっと♥　おちんぽ♥　お尻の中で急に大きくなった♥」
「だってだって♥　嬉しいんですもの♥　子供の頃からの夢がかなったんだからぁ～～♥♥」
「お……大げさだよぉ……♥」

大げさじゃないわよ♥　優しくて素敵な彼氏に、手作りちんぽ作り弁当、食べてもらいたかったんだもの♥
オムレツの後は、サラダを食べてくれる♥　新鮮な風味が、ザーメンのどろっとした味で台無しになってるんだろうな♥　男の子が大好きなハンバーグも、きっと、私の精液で最低の味になってるんだ♥
でも……夢中になって食べてくれてる♥　おにぎりを頬張ってる顔は、本当に美味

しそう♥

ユナ君はもう私のおちんぽミルク無しじゃ、生きていけない体になってるのよね♥

毎日毎日私のこってりザーメン飲んでくれてるもの。

頭の中までちんぽ汁漬けになっちゃったのかしら……♥

……美味しそうに、精液ごはんもぐもぐごっくんしてるの見てたら、おちんちんイライラしてきたぁ♥

「……ユ……ユナ君♥　私我慢できなくなってきたわ♥」

「ふぇ……♥　……あ、セックスしたいんだ♥」

「え、ええ♥　うう……椅子にならなきゃいけないのに……ごはんの邪魔をしちゃいけないのに♥」

ダメよ、折角私のお弁当、美味しそうに食べてくれてるのに、勝手にセックスなんてマナー違反……。

「……えい♥」

「え、ひゃあああぁぁぁ〜〜〜♥♥♥」

ユナ君が、腰を振り始めた♥　お、おちんぽが入れたり抜けたりする感触、凄い良い！！！♥

「だ……駄目よユナ君♥　テーブルマナーに反するわ♥　おほぉ♥　駄目♥　食事中にお尻おすまんこセックスなんて駄目♥　禁止よ禁止♥」

「料理にザーメンかけてる方がおかしいよ♥　ほら♥　ほら♥」

「んひいいい゛い゛い゛い゛い゛♥　ユナ君、正論言わないでぇ〜♥」

私も腰を振り始めちゃう♥　おちんぽとお尻の穴じゃ圧倒的にヒエラルキーはおちんぽが上だから、あっというまに主導権は私に移る、ユナ君は、女の子みたいに喘ぐ事しか出来なくなってる♥

「ひゃん♥　あぁん♥　お尻ズボズボ♥　きもちいいわ♥　もう射精ちゃう♥　下のお口にもザーメンご馳走しちゃう♥」

「ぼ……僕も♥　えっちな料理食べてたから……もう駄目〜〜〜……♥♥♥」

「あああ♥　あああぁ〜〜〜♥　゛おっへ♥　いぐ……♥　いぐぅぅぅぅぅ♥」

**びゅるるるるるどびゅびゅるるるるるうどびゅううう♥♥♥

第五話　女装メイドとふたなりお嬢様♥

［ごめんなさい、今日体調悪くて学校いけないわ］

登校時間に、ベッドの中からスマホで送ったチャットに、ユナ君はすぐ返信をくれた。

［大丈夫？］

［うん、大丈夫。今日相手できないかわりに、おちんぽの画像送るわね］

［え？］

次の瞬間、パジャマ姿で、笑顔でピースしながら、おちんぽごと写した自撮画像を、ドキドキしながら送っちゃう。……あ、これ癖になりそう、露出狂さんの気持ちがちょっとわかっちゃう♥

［ちょっと、何考えてるのマイカさん！　僕登校中なんだけど！］

［一日中ユナ君が、私のちんぽ想像してくれたら嬉しいもの♥］

［最低……］

［え、ちょっとごめん、許して～！］

かわいい動物のスタンプで謝るけど、その間に、オチンポやキンタマの写真も送っちゃえって♥

……冷静に考えると、本当最低な事してる。熱に浮かされてとんでもない事しちゃった、けど、

（おちんぽ好きなユナ君なら、きっと喜んでくれてるはずだし、うん）

風邪なおったら、いっぱいユナ君におちんちん扱いてもらおうって、金玉をムラムラさせながら、お父様お手製のおかゆを食べた後、ベッドの中で眠りについた。

♥♥♥♥♥♥♥♥

「マイカちゃーん、大丈夫？」
「あ、おか」
「セリカちゃんって呼ぶの！」

……そう言って低い身長でぴょんぴょんと飛び跳ねる小さな女の子に、私は苦笑を浮かべるだけだった。

「それより、風邪の方は大丈夫？」
「うん、大分楽かなぁ……というか調子いいくらい」
「ウィルス性の風邪じゃなかったかもだねー」

セリカちゃんはくるくる指を回して、ポニーテールも揺らした。

「と、いう事は、結構おちんぽムラムラしてるんじゃない？　……彼氏の事考えて勃起しちゃってない？」
「わっ！？　な、何言ってるの！？」
「セリカちゃん安心したよぉ、マイカちゃんにあんなかわいい彼氏君が出来て。……今度、一緒におちんぽしない？」
「しない、しないから！　もう出てってよ～！」
「にゃはは、ごめんなさーい♥」

真っ赤な顔になる私に笑った後、セリカちゃんは部屋を出て行った。
……はぁ、あれで私と血が繋がっているんだから、ビックリ。

「……」

だ、だめ、あんな事言われたら、本当に甘勃ちしてきたわ……♥
オナニーしたいけど寝て耐えよう……、がまんがまん……♥　快復どっぴゅんミルクはユナ君に飲ませてあげたいから……♥

♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「36度2分……」

夕方。学校はもう終わっている時間。

朝は38度近くまであった熱が、平熱に下がった事を、体温計で確認して、私は安心すると同時に、体がむらむらするのを耐えていた。

「いつも朝昼晩って、ユナ君におちんぽ処理してもらってたのよね……。うう、キンタマが疼く〜……♥」

パジャマの上から自分のキンタマを揉み回して、自分を慰める。ユナ君とビデオチャットで、相互オナニー出来ないかな〜、と、ユナ君にメッセージを送ろうと、スマホを手に持った時、ドアがノックされた。

「マ、マイカさん、居るかな？」

「え、ユナ君！？」

扉の向こうから聞こえてくる声に、びっくりしたけど、すぐに、嬉しい気持ちがいっぱい、胸にひろがる。

「居るわよもちろん！　お見舞いに来てくれたんだ、さぁ、入って入って♥」

あわよくば、私のおちんぽもしゃぶってもらおうと、私は扉の方をじっとみつめた。

すると、扉が開いて現れたのは、

「し、失礼します……」

「……え」

メイドの格好をした、ユナ君だった。

「……や、やだ、やっぱり恥ずかしい。このメイド服、スカートも短いし、それにショーツもスケスケでHだし、お尻は丸出しだし！」

「な、なんでユナ君、そんな格好を……」

元々女の子みたいにかわいいユナ君だから、メイドの格好が似合わないはずがなかった。顔を真っ赤にしながらも、ベッドに座る私の所へ近づいてくる。

「なんでって……マイカさんが絶対喜んでくれるって言われたから……」
「言われたって……誰に……」
私の質問には答えずに、ユナ君はスカートの裾をもって持ち上げた。ショーツに包まれたかわいらしい童貞ちんぽが、私の目に飛び込む。
「ご……ご奉仕させていただきます……マイカお嬢様……」
そして、後ろを振り返って、お尻の部分がくり抜かれて、丸出しになってるお尻を見せながら、
「男の娘メイドの女装オマンコで……いっぱいご奉仕させてください……！」
その言葉を聞いた時、私の中で何かがぷつんと切れた。
「ひゃあ！♥」
気がついたら私、ユナ君のおしりおまんこにしゃぶりついちゃってた♥　だ、だって～、こんなかわいいおしり見せられたら、我慢できないわよ～……♥
「汚い！　汚いよマイカさん！♥」
「ユナ君に汚い所なんかないわよ♥　好き♥　男の娘のおまんこの味大好き♥」
舌をいれると、きゅっと、肛門が私の舌をしめつけてくる♥　縦割れの線にそって、舌を上下へと動かす。
「あ、ふにゃあああぁぁぁぁ～～～ん♥♥♥♥」
気持ちよさそうなユナ君の声が聞こえる♥　私、もっと調子にのって、音をたててユナ君のアナルをなめ回す。
じゅる♥　ぴちゃ♥　ちゅ♥　くちゅ♥
「だ、駄目だよマイカしゃぁん……♥」
「マイカさんじゃなくて、ご主人様でしょ♥」

「ご、ご主人様♥　マイカお嬢様♥　もう許してくださ〜い♥」
「だ〜め♥」

後ろからお尻を舐めながら、私も、自分のチンポを思いっきり扱いちゃってる♥　最高のオカズをネタにして、チンズリオナニー凄い気持ちいい♥
ああ、こんな幸せでいいのかしら……♥

「い、いぐ、いっちゃう、いぐぅぅぅぅ♥♥♥」
「わ、私もぉぉぉっ♥　んっふぅっ♥」

ぼぼびゅう♥　ぼびゅ♥　びゅるるるうう♥

お、お尻舐めながら、射精しちゃった♥　ユナ君と私のザーメンが、自分の部屋の床でまざりあってる♥
私はお尻から顔をはなして、立ち上がるとベッドに座り直した♥
射精したばかりなのに、まだビンビンのオチンポと、ぷくっと膨らんだキンタマを揺らす♥
はぁ〜〜〜♥　メイド姿のユナ君が、えっちな目で私のふたなりキンタマチンポをガン見してるぅ〜〜〜♥　私はそこで、パジャマの前を開いて、たぷん♥　っとおっきなおっぱいをさらけ出した♥

「Hなメイドさんは〜〜〜♥　まんまるおっぱいと〜〜〜♥　まんまるオキンタマ♥どっちをモミモミしたいかしら♥」
「そ、そんなの……♥」

涎を垂らしたユナ君は、自分のチンポを扱きながら、私に近寄ってしゃがみこむとノータイムで私のキンタマを揉み回し始めた♥

「きゃん♥　変態♥　変態♥　やわらかおっぱいよりプリプリキンタマ選んじゃう、男の子失格の変態メイドさん♥」
「ち、違うよ、マイカさんのキンタマだから、モミモミしたいだけで♥」
「本当かしらぁ〜〜〜♥　おちんぽだったらなんでも喜んじゃう、ちんぽ中毒じゃないのかしら♥」

ちょっと意地悪な事を、私は言ってみた。

「……」
「あら、ユナ君？　……え」

ジュルルルルルルルルルルウ～～～ッッ♥♥♥

「〝おふお〟お〟お〟お〟お〟お〟おっ♥♥♥♥♥」

いきなり♥　いきなり超強烈バキューム男の娘フェラしてきた♥　気持ちよすぎるわ♥　脳天がアホになるわ♥

「ご主人様は意地悪です……僕はマイカお嬢様を一番愛してるのに……」
「ご、ごめんなさい♥　だからもうちょっとゆっくりおしゃぶりして♥　あ♥」

ギュウウウウウ～～～ッッ♥♥♥

「きんたまにぎりゃないでぇぇぇぇぇぇ～～～♥♥♥　んへぇぇぇぇぇ♥♥♥」

私の意地悪にユナ君は怒って、滅茶苦茶にキンタマとチンポを攻撃してくる♥　けど、それが気持ちいい♥　私のちんぽとお金玉、全部ユナ君に主導権握られてる♥　りゃめ♥　こんにゃの耐えられないよほぉ♥

「い、いぐっ♥　メイドからご主人様の下克上ちんぽフェラ♥　無理よ♥　無理♥　お嬢様じゃいられなくなっちゃうわ♥　身も心もちんぽも奴隷になりさがっちゃう♥　いぐうううんふおおおおんふへぇぇぇぇぇぇっ♥♥♥♥」

どびゅうううううううううう♥

「んう♥」
「ああ、でりゅ♥　でりゅ♥　メイドにでてりゅ♥　私の金玉ミルク全部ユナ君に捧げちゃう♥　ああメイドのお口にザーメン略奪されるのきもちいいの……♥」

ドキドキしながら、ゴクゴク、喉を鳴らして私のザーメンを飲んでくれる、ユナ君の顔をみつめちゃう♥
……ユナ君も、いつもどおり、精液を飲んだだけで射精したみたい♥
口を離すとユナ君は、そのまま私の体をおっぱいを潰しながら抱きついてきた♥

「ぼ、僕が好きなのはご主人様、マイカさんだけです。じょ、冗談でも、他の人のちんぽの事なんか話に出さないでください♥」

「ひゃあ、ユナくぅん♥」

とっても嬉しい事を言ってくれたユナ君を、私もまた抱きしめた。恋人同士の甘い時間……。

……でもその間も、お互いのちんぽが擦れ合っちゃう♥　すぐにお互い、だらしないアへ顔になった♥

「ユ……ユナく～ん、私、メイドさんの女装マンコにおチンポねじこみたいの♥」

「僕も……ご主人様のおちんぽ欲しいです……♥」

私は仰向けに寝転がった♥　ユナ君は一度立ち上がって、エロ蹲踞の姿勢で私のチンポに座り込むように、アナルにチンポの先をあてがった♥　自分のおっぱいで、私のおちんぽはみれないけど、ユナ君のエッチな顔はバッチリ見える♥

ずぶずぶぅぅぅぅぅぅ♥

「んひいいいいいぃ♥　予告なくチンポ挿入は禁止よぉ～♥　ゆっくり入っていくう♥　オスマンコ肉がねっとり病み上がりチンポに絡んでくる～♥♥♥」
「あ、あ、しゅき♥　ちんぽ入ってくる♥　ちんぽしゅき♥　ご主人様～♥」

完全にエッチなメイドさんになりきったユナ君は、私のふたなりチンポを、ゆっくりくわえ込んでいく♥　根元まで飲み込むのに、十秒くらいかかっちゃった♥
「ご、ご主人様、オスメイドのアナルせんずりで、ご奉仕させていただきます♥」
「ア……アナルせんずりって何ぃ……♥　どこで覚えたのそんな言葉ぁ……♥」

私の質問には答えず、そのまま腰をゆすり始めた♥
ああ、気持ちいい♥　ベッドでずっとむらむらしていたおちんぽ、たんったんったんっ♥　ってリズミカルに犯してくれる♥

「しゅ……しゅごいわこのメイドオナホ……♥　何もしなくても、おチンポをケツ穴でズリズリ扱いてくれる♥　優秀♥　優秀すぎるオスマンコメイド♥　お給金上げちゃう♥　ケツマンコメイド長に抜擢しちゃうわ♥」
「お、お気に入りいただけて、光栄です♥♥♥」

自分のおっきなおっぱいを、手で左右にわけて、ユナ君の股間の様子を見る♥
私のおっきなちんぽの上で、自分のチンポを上下左右に振り回しながら、ロデオマシーンにまたがるように、腰を振っている♥　気持ちいい～……こんなの駄目になっちゃうわ～……♥

「ご、ご主人様、僕のお尻マンコ気持ちいいですか♥」
「最高♥　最高よ♥　メイドアナルが私のおチンポをしっかり扱いてくれるの♥　それに、顔がとってもかわいい♥　チンポに駄目になってるスケベな顔♥」
「は……恥ずかしい……♥」

顔を真っ赤にしながらも、腰を振るのはやめないユナ君♥　メイドになってもらってのラブラブ逆アナルセックス♥
私達の限界は直ぐだった♥

「だ、出すわよ♥　メイドにっ♥　ほら、しっかりケツ締めて、ご主人様のザーメンお尻でゴクゴク飲みなさいっ♥」
「くださいっ♥　くださいっ♥　ご主人様の高貴な金玉ミルクで、メイドの男の娘マンコ妊娠させてください♥」
「射精す♥　射精すわっ♥　あ……んおひょおおお♥♥♥」
「ひゃあああああん～～～っっっ♥♥♥」

どぴゅぴゅぴゅ♥　びゅるうううう♥　どっぴゅん♥
びゅ〜う♥　びゅりゅうううう♥

金玉を震わせながら、騎乗位のユナ君の体が、一瞬浮き上がるくらいの量の精液を、私は思いっきりぶちまけた♥　お尻の穴を締め付けながら、ユナ君も射精して、私の顔とおっぱいをドロドロにした♥

はぁぁぁ〜ん♥　気持ちいい……♥　世界で一番幸せな気分よ……♥

「ご、ご主人様ぁ……♥」

「あら、うふふ♥」

繋がったまま、倒れ込んで、私のおっぱいに顔をうずめるユナ君♥　私はユナ君の頭を撫でてあげた♥

「メイドでするの、気持ちよかったかしら？」

「……う、うん、マイカさん♥」

「そっか、それでしたら、今度は私が、ユナ君のメイドになってあげてもいいわよ？」

「え！？」

私の言葉に、ユナ君は顔を真っ赤にして、同時にお尻の穴を締め付けてきたから、思わず私はまた射精してしまった♥

♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「ところで、そのメイド服は誰に貸してもらったの？」

「屋敷に入ったら、背の高いポニーテールのメイドさんが貸してくれたんだけど」

「……それ、私のお父様ね」

「え」

「ふたなりのお母様にご奉仕する時は、時々その格好なのよ、こんな感じで」

「ええ！？　このスマホの画像で、メイドさんにおちんちん入れてる子、マイカさんより若いんじゃ……！」

「これで二人供４０代なの……」

「えええぇぇぇぇぇぇ～～～～～！！！！」

「……ち、ちなみになんだけど、ユナ君は私のおちんぽ一筋っていつも言ってくれるけど、お母様のはダメ？」

「な、何言ってるの！？」

「お父様も交えて、親子ふたなり逆アナルセックスとかしてみたいかなぁって……」

「そ、それは～……」

「だめ～……？」

「ええっと、ええっと……」

体験版はここまで♥
続きは製品版で♥